

## 台風に負けない「仙台せり」

宮城県のせりの生産量は全国1位。県内生産の約8割が名取市で生産されている。名取市下余田地区の「下余田芹出荷組合」を構成する35戸の農家は、例年10月から年末年始にかけて、ブランドの「仙台せり」を約1万1千ケース（約6kg/ケース）出荷している。

本来なら猫の手も借りたい時期だが、今年は3度にわたる台風でせり田には大きな被害があった。

同組合長の大友智義さんは「今回の台風で約7.5haあるせり田のうち、2haが植替えを余儀なくされた。約半数以上の組合員がパイプハウスで栽培しているものは、1月から2月に出荷するので影響はなかったが、今回の被害は年末年始向けの露地ものに集中しているので大変だ」と今回の被害状況を語った。



仙台せりは茎長が35cmから40cmの長さが最良で、Mサイズとして県内及び関東に多く流通している。「せり鍋」が全国的なブームになりつつあり、名取市ではG I制度（地理的表示保護制度）認証のための協議会も設立したばかりである。さらなる知名度の向上と仙台せりを愛好する消費者の需要に応えられることを願うばかりだ。